

令和6年度第1回かつの未来会議

日 時：令和6年7月29日（月）18時00分～20時00分

場 所：文化の杜交流館コモッセ 講堂

出席委員14名（欠席1名）

出席職員：関市長（以下、事務局）

〔政策企画課〕 課長、室長、主査、主査、
主任、主事

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和6年度第1回かつの未来会議を開会いたします。

2 委嘱状交付

関市長より当日出席委員14名へ委嘱状を交付。

（欠席した委員には、後日交付。）

3 出席者自己紹介

出席委員14名及び出席職員による自己紹介。

4 市長あいさつ

皆さん、こんばんは。鹿角市長の関です。

第1回かつの未来会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しいところ、かつの未来会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、皆さまには向こう2年間、委員をご快諾いただきまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

さて、本市では昭和47年の市制施行以来7度にわたり、総合計画を策定してまいりました。総合計画は、将来における鹿角市のあるべき姿と進むべき方向を示した、本市の最上位計画です。

現在、第7次総合計画の前期基本計画を進めておりますが、今年度、令和8年度を始期とする後期基本計画の策定に着手いたしました。

策定にあたりましては、市民の皆さまと市の将来のあり方やこれからの目標を共有し、単なる行政の施策にとどまらず、共に考え、まちづくりを進めていく機会としたいと考えており、このかつの未来会議は、その最も重要な場と位置付けているところです。

現在、我が国はかつて経験したことのない人口減少に直面しています。この現象は、特に地方都市において顕著であり、本市にも影響を及ぼしております。

人口減少は、単に数の問題ではなく、地域の活力や経済、さらには生活環境にも深刻な影響を与えております。少子高齢化が進む中で、若い世代、特に、女性の流出が課題となっており、持続可能な本市の発展を考える上で、後期計画において、この問題に真剣に向き合う必要があると考えております。

このような状況下で、私たちが目指すべきは、地域の魅力を高め、住みたい、住み続けたいと思える環境を

整えることです。

皆さまもご存じのとおり、私たちの市は、多様な文化や豊かな歴史を有し、それぞれの地域に独自の魅力があります。この魅力を最大限に引き出し、市民が誇りを持てるまちづくりを進めていくことができれば、希望溢れる明るい未来が待っていると確信しております。

このためには、皆様のご理解とご協力が不可欠です。市民一人ひとりがこの計画に関心を持ち、自らの意見を発信していただけることを心より願っております。

結びになりますが、委員の皆さまより、忌憚のないご意見を頂戴しながら、計画の策定を進めてまいりますので、何卒お力添えを賜りますようお願い申し上げ、挨拶と御礼に代えさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

5 議事

(1) 会長等選出（進行：市長→会長選出後から会長が進行。市長退席。）

・会長選出

要綱では、委員の互選。立候補者 → なし

事務局案 → 承認

【会長あいさつ】

ここに集まっている皆様におかれましては、年齢や職業のみならず、人生経験も多種多様だと思いますので、それぞれに思いや考えがあるかと思います。それを皆さんで共有して、行政に届けて、鹿角の未来を良くしていきたいと思いますので、ぜひとも皆さん忌憚のない意見をよろしくお願いいたします。

・職務代理者の指名

会長が指名

(2) かつの未来会議の概要とスケジュールについて（資料1・2）

説明：政策企画課

(3) 市の現状と課題について（資料3）

説明：政策企画課

質疑応答

(委員) 若者会議や若者アンケートというのは、どのようなことを行うのでしょうか。また、若者会議の傍聴は可能でしょうか。

(事務局) 後期計画の見直しにあたり、鹿角市すべての中学校・高校から代表生徒を集め、かつの未来会議のような形で中高生から意見聴取したいと考えております。若者アンケートについても同様で、高校生から39歳までの鹿角市民を抽出し、データを取りたいと考えています。また、若者会議については前回も市民公開型で実施しておりますので、傍聴可能です。

(委員) 人口減少対策をバブル期やベビーブームを基準に講じていくことにいささか疑念を感じます。そもそも適正な人口はどのくらいなのか、具体的な目標が定められていないと感じます。どのくらいの人口規模であれば今の市政を維持していけるのか、他の委員の意見が知りたいです。

(委員) 人口減少はある程度仕方のないことで、人口にとらわれず、未来の家族が鹿角に居住し続けていることで幸せを感じられていることが大事だと私は思います。

(委員) 適正な人口について、同じ人口数でも、高齢者比率によって労働生産性が変わってくるため、一概に単純な人口数では表せないと考えますが、一定の数値を定めて、政策を打ち立てていくのは悪いことではないと思います。

(会長) 人口減少が進んでしまうと、会社でいう倒産のような状況になりかねないと思います。確かに人口ピラミッドの構造など色々あるかと思いますが、将来にわたって経営していくための最低条件が明確化できるというなと思います。

(委員) 会社経営者の視点から考えると、やはり目標がないとうまく政策の実行に移せないと感じます。日本全体での喫緊の課題だと騒がれているし、本会議の資料を見ても、人口減少に対する課題意識をととも感じます。市の方で、何か具体的な方針は定めているのでしょうか。

(事務局) 鹿角市人口ビジョンにおいて、2040年の将来人口として20,868人、2060年では14,205人を展望し、人口減少対策を進めています。人口の全体数だけでなく、移住やUターンの促進、地元就職のための環境づくりによる人口構造の若返りも必須であると考えます。

(委員) 今、定められている生産年齢人口は65歳までとされているが、この見方を変えることはできないでしょうか。高齢者は定年を迎えたら何もしなくなったかといわれると、そうではありません。少なからず市内の生産力に寄与している高齢者もいるので、生産年齢人口の捉え方を変えてもいいのではと思います。

(委員) 鹿角では定年を過ぎても働いている人が多く、農業従事者については80歳を過ぎても働いている方もいます。そのような人たちを生産人口に加えないのはおかしい話だと思います。

(委員) 先ほど委員から説明があったように、国で定めている指標をベースにするだけでなく、鹿角市が置かれている状況を踏まえながら、鹿角市独自の視点を持つことで、生産年齢人口の増加に対する解像度が上がってくるのではないかと思います。

(委員) 外国人技能実習生の人数は市の方で把握していますか。これからはそのような人たちを、あらゆる分

野に登用すること必要かと思います。

(事務局) 外国人技能実習生の人数に関しては、市民課の窓口で把握しています。実際、近年では非常に増加しています。

(委員) 私が日本全国を周った末に、鹿角市を移住先として決めた理由は、小学校における児童に対する教師の人数の割合が高いことが一因となっています。一人の児童に教師が手厚くカバーできることで、質の高い教育につながっていると感じますし、保育分野においても同じであればいいなと思います。また、鹿角市に来るまでは、世界遺産を大々的にアピールしているイメージがありましたが、温泉資源やおいしい食べ物だけでなく、住居費や食費があまりかかりません。食料だけでなく、エネルギー自給率も 400%あり、災害の多い昨今、必要最低限の生活が自己完結できます。このような身近にあり小さくても光っているアピールポイントがたくさんあるので、その部分の周知が大切だと思います。例えば、周辺地域の保育園児や小学生を一時的に滞在させた自然体験ツアーなどあれば、魅力が伝わりやすいと思います。

(委員) やはり都市部だと家賃は高いし食費もかかります。一方で先ほど委員がおっしゃっていた、お金がかからないという部分や豊富な地域資源をもっと全面的にアピールすべきだと思います。

(委員) 委員がおっしゃったアピールポイントについて、我々は、やはりまだまだ発信不足だと思います。

(委員) その情報発信を誰がするかという話なのですが、私の仲間に、SNS 等である程度発信力のある知り合いがいます。その人と共同で活動を行うことで、自分側としては周知活動になるし、相手方は新しい分野への知識が広がるという win-win の関係を築くことができると思っています。今の子供たちは SNS をうまく活用できていると感じるため、若者を巻き込んで活動していくことに重きを置いた際に、SNS の活用は不可欠だと思います。

(委員) 確かに SNS を使えば関係人口はいくらでも増やせると思います。しかし問題は、その関係人口をいかに交流人口にできるかどうかだと個人的には思っています。

(会長) 鹿角で生まれ育った子供たちは、この環境を当たり前の事として捉えてしまっています。このような子どもたちが都会に新鮮な魅力を感じて出て行ってしまうのではないかと思います。また、出て行ったまま戻って来ていないというデータがあるので、委員のようにとても魅力を感じてくれている人がいるのに、原因はなんだろうと常々思います。

(委員) 私も委員と同じで、鹿角に魅力を感じていますので、同級生にも帰ってきてほしいです。しかし、同級生は皆口をそろえて「就きたい仕事がない」と言いますし、起業しようにも勇気がない、という人が都市部に留まっているのと考えています。私自身は、都会にいるよりもよっぽど豊かな暮らしをしていると感じます。魅力を伝えきれていないところはありますが、安定した仕事や頼れる実家があれば、安心して帰ってこれると思います。仕事は選ばなければたくさんありますし、あとは地元の企業が魅力の向上や発信に力を入れてくれれば鹿角に戻ってきてくれる人が増えるのではないかと思います。

(委員) 確かに、豊かな自然や再生可能エネルギーなど、鹿角には強みが数多くあると思います。しかし、再生可能エネルギーの地熱発電ひとつ取っても、実用開始までに様々な問題があるなどそれぞれの地域課題があると思うので、ノウハウや事前知識のない都市部からの移住者が有効活用できるか、いささか疑問に思います。

(委員) 今後予定している若者アンケートでは、世界遺産や祭りなど、非日常的な分野の魅力だけでなく、日常生活の観点から把握できる項目を取り入れてほしいと思います。

(委員) 鹿角市は、人の温かみがあり、地域住民の絆が強い一方で、裏を返せば、コミュニティの結束力が強すぎるがゆえに、過干渉になってしまっていたり、個人情報筒抜けになっており、プライバシーが侵害されてしまっていると感じます。その側面が若い女性にとって印象が悪く、女性のUターンや移住が少ない要因の一つではないかと思いますので、若い人が匿名で赤裸々に回答できるアンケートであればいいと思います。家賃の補助など、経済支援に関しても若い人に対して手厚くできればいいなと思います。

(会長) 若い人に対する補助があるのに、周知が行き届いていないと感じます。その点についても若者アンケートで盛り込むようにして、経済的要因から鹿角を出てしまう若者を呼び戻したり、地元就職を促すことができればいいと思います。

(委員) 皆さんはなぜ鹿角に戻ってこようと思ったのですか。

(委員) もともと東京でサービス業をやっていましたが、新しい夢ができて両親に相談したところ、実家の家業を手伝いながら考えてみるといいと言われ、鹿角で過ごしているうちに居心地の良さに気がきました。

(委員) 定年退職した後に、親の介護のために出身の鹿角市に戻ってきました。

(委員) 鹿角市の魅力は、かなりあるかと思いますが、発信して何をしたいのかがよく分かりません。観光客を呼びたいのか、定住者を増やしたいのかがはっきりしていないので、どちらかに注力すべきだと思います。すべてを得ようとする力が分散してしまうと感じています。

(委員) 基本戦略1の「活力を生む地域産業・生業を支える」という項目について、特に危機感を感じています。鹿角を出て行ってしまう人は、鹿角で暮らしていくビジョンがうまく見出せていないからだと思っています。労働力としての高齢者に対する視点もこの部分につながってくるのではないかと思います。このような部分から、鹿角の経済についてもっと深く考えていく必要があると感じています。

(委員) 基本戦略4の「暮らしの安全・安心を高める」という項目で、資金が足りないのでライフラインを維持できなくなってしまうたり、今の農地の維持ができなくなってしまうと思います。特に熊対策について、一般的な対策方法として、地域での草刈りなどの環境保全がありますが、これからは難しくなるので、個人単位で自衛手段を持っていないといけないと感じます。実際に私も受け身な対策だけではない、積極的な熊対策に注力しています。

(委員) 先日の熊対策に係るシンポジウムで聞いた話ですが、やはり草刈りが有効的だとおっしゃっていました。その草刈りを地元の学生たちを巻き込んでやったら、とても盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気で行うことができたそうです。

(委員) やはり草刈りのような体力を使う仕事は、いずれは若者が取って代わらないといけません。そうなったときに大体の会社は副業禁止です。このようになり手がいない現状の中で、草刈りは事業化のチャンスがあると思っています。

また、最近の若者は精神的に疲弊していると感じます。この疲れが体力面での疲れ、いわゆるいい疲労に取って代わることができると、若者の活力が向上して、意識が結婚ないしは出産に向くのかなと思っています。

私個人の意見として、事業としての草刈りは期待値が高いと思っています。

(委員) 熊対策として5,000万円を寄附された方がいらっしゃいましたが、既にその半分以上が誘引樹木の伐採費の補助として予算計上されています。このような寄附を伐採だけではなく、もっと効果的な対策に回してほしいと思います。

(委員) 働き口の少なさや、給料の安さはネックであるし、どれだけ魅力があっても経済的に安定していないと、若者は鹿角に残りたいとは思えないはずです。Uターンして地元就職してくれた若者に数年間の経済的支援を行えばいいと思います。高齢の労働者についても同じく助成を行い、鹿角市内での経済循環を促すやり方がいいのではないかと思います。先ほど熊の話がありましたが、駆除された熊を使って何か事業はできないでしょうか。市内にある資源・財産を使って持続可能な市の運営について考えていかなければならないのではないかと思います。

(委員) 私の夫は猟友会に入っており、若い猟師が欲しいと常々話しています。昨今、熊被害が多い中で、駆除した熊の利活用についてのアプローチを若い人の視点から考えてほしいです。ジビエにする際には、解体場所の衛生面をしっかりとくれれば、加工・調理は既存のものを使うことができるので、鹿角市で何か事業を立ち上げることができるのではないかと思います。

(委員) 熊のことについて、猟友会に入ってくれるような意欲ある若者もいます。とても精力的で、企画書も私に持ってきてくれました。そのこと自体が私にとっては希望に感じます。先ほど委員がおっしゃった、熊の解体処理場は今市で整備しています。流通や販売にあたっては、衛生面で保健所の基準をクリアしなければならず、そこにお金がかかってしまいますので、難しいかもしれませんが、システムの構築を行政にはお願いしたいです。例えば廃校を活用した処理施設ができればいいなと考えていました。さきほど説明した有志もいて、廃校をどうにかしたいという市のニーズが合致していると考えられるので、考慮に入れてもらえればと思います。

(委員) 鹿角市から産婦人科が無くなって、鹿角市内で出産できなくなったことが、子育てに対するマイナスイメージにつながっているのではないかと思います。しかし実際に住んでみると、保育料の無償化や高校生までの医療費の免除など、子育てのしやすい環境だと感じます。若い人にまた鹿角に戻ってきてもらえるように、子育てのしやすさに関するアピールをもっと市内の学生に発信していければいいと思います。

(委員) 私は去年、転勤で鹿角に引っ越して来ました。今まで大館市の市街地で暮らしていて、農村部の暮らしを知りませんでしたが、実際に暮らしてみると豊かな自然の良さを感じられて、発信していかなければと思いました。

(委員) 支援学校に通う児童に対する支援を手厚くしてもらいたいです。職業体験は受け入れてくれるのですが、一般就業となると、就職先が狭まってしまう現実があります。また、通勤には車が必要となりますが、支援学校の生徒の中には、運転免許の取得がままならない方もいます。そのような方はバスでの通勤となりますが、例えば私の住んでいる地区では1日に2便しかバスが来ません。交通弱者のために、公共交通の改善をお願いしたいです。また、子育て支援についてですが、出産の際のクーポンは発行していますか。

(事務局) 出産時には、国の支援として妊娠中に5万円、出産後に5万円のほか、大館の病院に通わなければならないことなど、出産にかかる費用を考慮して市から5万円、このほか県から2万円、それぞれ現金で給付しています。

(委員) 現金での給付も大変ありがたいですが、子育てに関する物品購入に特化したクーポンがあればよいと思います。

(会長) 私の住んでいる毛馬内は空き家が多く、人が少ないです。自治会も加入者が減っており、何かイベントを行うとなると、行政にお願いしなければならない雰囲気がありますが、行政の対応にも限界があると思います。自治会の機能回復ができれば、人口減少や空き家、熊対策などの解決が見えてくると思っています。

(委員) 気仙沼や石巻に行った際、東日本大震災以降、地域住民の結束力が強まっているのを感じました。次にいつどんな災害が来るか分からない状態ですが、現地の人が今の生活が幸せで大切に生きていることがとても魅力的でした。その反面、鹿角は自分たちが享受しているものが当たり前すぎて、恵まれていることに気付いていないと思います。まずは一人ひとりが今の当たり前でいることのありがたさに気付くことができたらいいなと思います。

(事務局) たくさんのご意見をいただきありがとうございます。次回の会議では、基本構想の見直し案を提示させていただいた上で、皆様からご意見を頂戴したいと思っていますので、よろしくお願いします。

6 閉会 (20:00 終了)